アジアに広がった工業化と日本の役割（輸出が支えた成長）

アジアの国や地域は、なぜ次々に経済成長し、日本はそれにどう関わったか

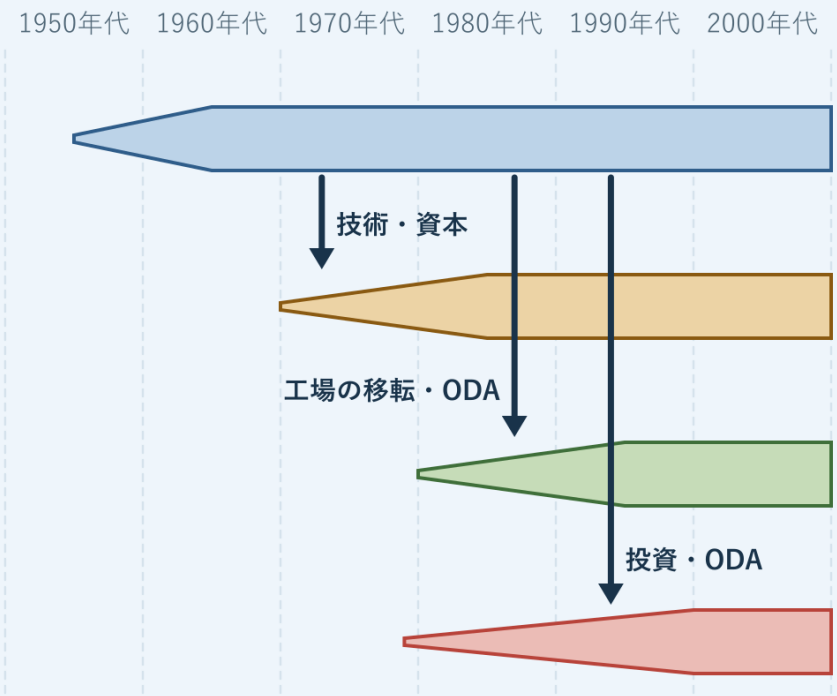
輸出向けの工業が育った時期（目安）

日本
1950年代半ば〜
高度経済成長

新興工業経済地域（NIES）
1970年代後半から
高い成長が目立つ

ASEANの国々
1980年代後半から
工場が増える

中国
1978年 改革開放
1990年代に投資が急増



帯の太さは模式で、生産の量や成長率ではない

成長を支えた条件

1. ベトナム戦争の終結後の政治の安定
2. 日本や欧米からの技術と資本の導入
3. 先進国などへの輸出（輸出主導型の工業化）

日本の関わり（左の矢印）

技術・資本（投資）
企業が工場を建て、技術を伝える

工場の移転
1980年代後半、円高を背景に、日本の企業が工場を移す

ODA
政府開発援助で、国づくりを支える

欧米の国々からの投資や、アジアの国・地域どうしの結び付きもあった

生まれた課題

- 日本とアメリカ合衆国の貿易の不均衡
- 国家間や国内の経済格差
- 資源・エネルギーや環境の問題

※ 模式図。帯の始まりは時期の目安。国や地域の中でも時期は違う。